

会 議 録

会議の名称	令和元年度第1回まち・ひと・しごと創生懇談会
開催日時	令和元年8月20日(火) 午前 ・午後1時30分から 午前 ・午後3時30分まで
開催場所	市民活動交流センター はにぽんプラザ 多目的ホール
出席者	吉田市長 (委員) 田中 輝好委員、明堂 純子委員、田邊 晶子委員、 間庭 英雄委員、福島 賢俊委員、谷田 裕之委員、 高橋 博志委員、江原 貞治委員、金井 幹雄委員、 茂木 通信委員(代理)、稲継 裕昭委員、 岡田 正則委員、吉田 永子委員、宮下 哲治委員、 新船 直人委員、戸谷 清一委員 (事務局) 山下部企画財政部長、中山総務部長、 反町市民生活部長、原福祉部長、岡野保健部長、 木村経済環境部長、浜谷都市整備部長、 高橋教育委員会事務局長、大屋議会事務局長、 福島上下水道部長 企画課：前川課長、齋藤課長補佐、千田主査、 渡邊主事
欠席者	荒井 克巳委員、清水 義雄委員、戸谷 正夫委員、 小林 由美委員、坂本 雄平委員、富沢 峰雄委員、 安部 逸郎委員、森久保 晶彦委員
議題 (次第)	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. あいさつ 4. 自己紹介 5. 議事 (1) 本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証報告書について (2) 次期本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けた基本的考え方について 6. 閉会

様 式

配 付 資 料	資料1 本庄市まち・ひと・しごと創生懇談会委員名簿 資料2 本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証報告書 資料3 次期本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けた基本的考え方 資料4 本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 資料5 本庄市人口ビジョン
その他特記事項	
主 管 課	企画財政部企画課

会議の経過	
発言者	発言内容・決定事項等
1. 開会	
事務局	ただいまより、令和元年度第2回本庄市まちひとしごと創生懇談会を開催させていただきます。
2. 委嘱状の交付 吉田市長より交付	
3. あいさつ	
吉田市長	<p>令和元年度第1回本庄市まち・ひと・しごと創生懇談会にご多忙の中、ご参加いただきありがとうございます。皆様方には日頃より本庄市の様々な立場から、ご提言をいただき心からお礼申し上げます。</p> <p>少子化・高齢化というものが、日本の大きな課題として意識されるようになって久しいわけでございます。国や地方においても様々な政策を行っているところですが、残念ながら出生率の低下には、歯止めがかからない状況です。将来日本はどうなっていくのか、また、どう支えていくのか、様々なご意見、様々な取組がありますが、我々が国全体として、新しい打開策を見出していないのが現状です。国で大きなテーマを出して、皆が納得して進むという問題ではなく、地方自治体で試行錯誤していく中で、将来にむけた展望が出てくるのではないかという推測です。そのため、各地域・各自治体が模索をしている状況です。</p> <p>近年の取組みとして、埼玉県がAIを使った婚活事業を昨年からはじめています。県のAIサポート事業は大手のお見合い会社より安い値段で入ることができ、いくつかの成功事例も出てきています。かつては考えられないことでしたが、自治体でも婚活事業をする時代になっているわけです。若い方々が、結婚でき、安心して子どもを産み育てられることは、出生率だけに焦点を絞るのではなく、社会全体を考える中で、みんなでいかに産み育てやすい環境をつくっていくかということになるわけです。まさに、この「まち・ひと・しごと創生懇談会」の中で、各自治体単位での出生率の上昇や、人口問題に焦点を当てた中で、政策をどうしていくかという問題であると思います。</p> <p>多くの方からご意見をいただく中で、本庄市の取組が、少子化という大きな課題に明るい傾向が見出せるようなことが理想だと思っています。試行錯誤が続きますが、引き続き、皆様方のご尽力・お力添えをお願いいたします。</p>

座長	<p>前回の懇談会は昨年11月でしたが、それ以降の日本の地方自治を取り巻く動きとしては、第32次地方制度調査会において、先般中間報告が出ました。この地方制度調査会は日本の長寿のあり方について、様々な観点から議論をする場です。その中で今議論をしているのは、圏域という概念です。本庄市にも圏域という概念があります。そのような中で、平成になってから、平成の大合併をしたものの、それ以上の合併は出来なくなっています。他方で基礎自治体が担うべき役割は増えるとともに複雑化し、小さな自治体では賄いきれない状況です。これまでは、どんな小さな自治体でも、全ての行政サービスが提供されていました。しかし、ある業務については近隣の自治体の協力を得るといような協力関係で、今後の地方自治行政を担っていくという考え方が、この圏域という概念です。このようなことが、今後の地方自治法の改正につながっていくと思います。ある意味で、日本の地方自治が大きな転換期にきていると思われます。</p> <p>また、昨年4月と6月に2040研究会の報告書が総務省から出されています。これは2040年の日本の地方自治の姿からバックキャストिंगして、今何をしなければいけないのかということをもとめるための研究会で、その中でも様々なことが書かれています。</p> <p>この中に2つの重要なことが書かれています。1つは圏域の話です。これは翌月の地方制度調査会に引き継がれています。もう1つは2040年には半分の職員数でも地方自治を担えるようなことを考えなければならないかもしれないということです。半分の職員数でもできるような未来技術、ロボット技術やAI、RPAというパソコン上の作業を人間に代わってロボットがしますが、それを使って業務を行うことが書かれています。多くの自治体で今年に入ってからRPAの導入がかなり進んでいて、今後本庄市でも検討されることと思います。民間企業ではAIを使って業務改善が進んでいると聞いております。今後AIを使った業務改善というものも大きなテーマになってくると思います。そういった意味では、今日議論いただく総合戦略の中でも、そういう視点が入ってもいいのではないかと考えております。</p>
4. 自己紹介 各自自己紹介	
5. 議事 (1) 本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証報告書について	
事務局	資料2「本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証報告書」に基

	づき説明
	委員より質問・意見等 特になし
	(2) 次期本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けた基本的考え方について
事務局	資料3「次期本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に向けた基本的考え方」に基づき説明
委員	<p>本庄市の人口を増やすような施策を打つアイデアはないのでしょうか。群馬県は努力し、良い取り組みをしています。人口を増やしていくために、若い人たちにどういう働き場所があるか、具体的に何も書かれていません。本庄市が何か良い手段を打っているのかが見えません。是非、そこが見える政策を打ち出してもらいたいと考えます。</p> <p>県に対しても、本庄市へ工業団地をぜひ造成してくださいと言っています。</p>
座長	「群馬県で良い取組がある」というのは産業団地をつくったことですか。出生率を向上させるのに、産業団地の創出とどういう因果関係があるのですか。
委員	若い世代に働く場所がないから外に出ていく。それを止めなければならないと考えます。今、本庄市の人口がわずかに増えているのは、群馬県に働きに行っているからです。明らかに分かるのは、朝8時に、こちらから坂東大橋を渡るのには渋滞しています。逆は渋滞していません。本庄市民は、群馬県に働きに行っているのが実状です。新しい工業団地を造成し、是非、企業誘致をしていただきたいと思います。
座長	資料3の5～6ページに「企業誘致」という言葉があるので、この部分に肉づけをしていけば良いと考えます。他の方は、どうでしょうか。
委員	<p>一番の問題は、人口の減少ではないかと思っています。本庄市では合計特殊出生率が国の値よりも低いですが、これをもう少し分析した方が良いと思います。そんなに住みにくい街ではないかと思っていますが、どうして低いのか具体的に考えて、施策に取り入れることが必要だと思います。高校生までの医療費助成等を行っているにも関わらず、なぜ低いのかということ、深く掘り下げる必要があると考えます。</p> <p>合計特殊出生率のみならず、出生数が減っていることも大きな問題だと思います。若いお母さんたちが何を求めているのか、本当のニーズを突き詰めれば、特に参考にすべきはヨーロッパ、北欧です。1人でも多くの子どもを産んでもらうためには、どのよ</p>

	<p>うな施策が有効か、思い切った施策を入れてほしいと考えます。経済的なものであれば、他の事を犠牲にしても、少子化を食い止めるため、思い切った施策をした方が良いと思います。</p> <p>本庄市のこれらの数値がなぜ低いのかというのを問題視した方が良いと思います。本庄市の何がいけないのか、それを突き詰めて1つここに入れてもらえればと思います。</p>
企画財政部長	<p>現在の総合戦略の人口ビジョンを策定する段階において、比較的晩婚化が進んでいるということが傾向として出ました。高い年齢で結婚すると、1人目のお子さんをもつことはできるが、2人目以降は壁が高くなってしまいう傾向があるのではないかとということで、合計特殊出生率が低くなっているのではないかと分析したことがあります。このため、なるべく早い時期に結婚できるような施策を打つべきではないかということは、前の人口ビジョンをつくる際に話が出ていました。</p> <p>現在は第3子を応援しようということで、国では10月から第3子について保育料の無償化が始まりますが、本庄市については少し早めに先行して無償化を始めたということも、1つの施策としてあります。</p>
座長	<p>なぜ晩婚が多いのか、そういう分析はされたのでしょうか。</p>
企画財政部長	<p>何故というところまで、深掘りは出来ていない現状です。ただ、比較的結婚する年齢が高いという状況が出ていたので、もう少し早い段階で結婚できる、例えば、出会いの場を充実させていくとか、働く場についても力を入れていかなければいけない。それから働き方についても力を入れていかないと、早い段階で結婚に踏み切って子どもを育てていくということにつながらないのではないかとということについて、話し合いの中で出たということです。もう少し深掘りする必要があるかもしれません。</p>
委員	<p>出生率の改善・向上のところで、基本戦略Ⅱ（9）出産に向けた支援はとても良いと思います。本庄市は公共交通機関がほとんどなく、生活しにくく、病院にも通いにくいので、例えば子育て世代が使えるタクシーチケット等があると良いと思います。</p> <p>埼玉県内でも第3子に50～100万円を渡しているところもありますし、奨励金を渡している国内の企業もあります。例えば、タクシーチケットやファミリー・サポート・センターで使える育児応援チケットなどが考えられます。</p> <p>若い人たちの間では、この市町村の子育て支援策が良いというのはすぐに広まるので、目に見えることをすると良いと思います。</p> <p>また、本庄市は出産に関して言うと、1つのクリニックでしか</p>

	<p>出産できないという現状があります。市内で産めないというのは大きな問題だと思います。急な出産のときの出産タクシーがあると非常に良いと思います。つい最近も、他県から引っ越してきた方が、生後1か月の赤ちゃんを連れて誰も頼るところがなく本当に困っているとの声がありました。転入してきた方たちは本当に何も知らないので、転入届を出しに来た時にもう少し詳しく説明してもらって、子育て支援課につなげるような取り組みが必要ではないでしょうか。</p> <p>あとは、資料3の6ページ個別施策(27)の子育て世代ニーズに応える公園施設の充実ですが、総合公園にふわふわドームがオープンして、毎日賑わっています。たった1つの遊具が、ここまで公園の姿を変えるのかという、とても良い見本だと思います。大きな効果があったと考えますが、土日でも遊べる室内施設が全くないので、それをつくれば、子育て世代の安心できる場所になると考えます。本当に子どもを増やしたいのなら、この近隣にないものを思い切ってつくるということもとても重要だと思います。</p> <p>また、本庄市住まいる応援金が実施されていますが、息子が今年度対象であったものの、本人たちに何のお知らせもなかったようです。転入届を出した際に窓口で案内する、資料を渡すなど工夫してほしいと思います。今の若い人達の情報の広がりはずごく早いので、是非小さなことでもしっかりやっていただきたいと思っています。</p>
委員	<p>子どもが保育園に通っている間はアパートに住んで、どんなところに住みたいか観察し、行きたい小学校を決めて、家を建てるということにつながると考えます。そういう意味で、保育園の入園はすごく大事な問題だと思います。本市にとっては転入のチャンスだと思うのですが、市外の方の受入を制限している現状では、転入のチャンスを逃していると思います。</p> <p>あと、結婚の部分でいうと、農村部では結婚したくてもなかなか相手がいらない、チャンスがないという方が結構います。地域のお見合いのようなものがあれば良いと思います。</p> <p>また、0～2歳の子どもの親の離婚率がとても高いと感じています。子育てに関する悩みからうつ病になるケースもあります。離婚率を減らすことも出生率アップにつながると考えますが、出産したばかりの保護者に対するサポートが、まだまだ足りていないのではないかと感じます。</p>
委員	出生率の向上や若い世代の定住ということで、若い世代に着眼

	<p>点を置いて基本戦略が立てられています、「少子」と言えば、「高齢」という言葉が出てくると思います。しかし、ここではあまり高齢については触れられていないと思います。基本戦略Ⅲに「誰もが住みたい、住み続けたいまち」とありますが、ここに高齢者が住み続けられるよう、若い世代だけではなく、高齢者に対する施策も必要ではないかと思えます。高齢になっても住み続けられるということで、若い世代が住みたいという意識につながるということもあると思うので、基本戦略の中に加えられれば良いと考えます。</p>
委員	<p>少子高齢化も含めて、一番端的に表れるのが農業だと思います。そのような中で基本戦略のⅠからⅣの中の1つ1つの掘り下げが少ないのではないかと思います。できればワークショップを行って、1つ1つの戦略に関してもう少し深く掘り下げる機会をつくって話し合う必要があるのではないかと思います。</p>
座長	<p>ワークショップでもう少し掘り下げた方がいいのではというご提案でしたが、今後検討していく中にワークショップを行って、色々な人の意見を取り入れる形で考えていけたらと考えます。</p>
委員	<p>派遣労働では、低賃金のため生活できないという問題があります。派遣労働者を減らしていく良い方法があれば、結婚につながると考えます。</p>
座長	<p>派遣や低賃金の問題は、大きな課題であると思います。地方自治体でも非正規職員が非常に多いことが問題になっています。来年4月の法令改正により、非正規職員にも期末手当が出ることになりました。役所自体が出来ていないことを、民間に言い出しにくいのではないかと思います。</p>
委員	<p>雇用対策についてですが、ハローワークでは来年1月よりシステムが変更となります。これまで事業所が来て求人票を出してもらっていたものが、今度からはWEBで行うシステムが変わります。他にも様々な面で変わってきます。</p> <p>国の施策として、46歳くらいまでの方で、一度就職し退職された方が正規の職に就けるよう、「正規職員としての就職に向けた支援」というものがあります。このことも含めて、雇用対策についても検討していただきたいと思えます。</p> <p>今までの雇用対策をみると、学卒世代の参加者を対象にしているようですが、学卒の就職者数は頭打ち、生徒数自体が少なくなっているため、これを増やしていくことは難しいと思えます。対象者を全体として目標を立てると、より良くなるのではないかと思います。</p>

委員	<p>出生率の改善は、若い世代に向けた計画を立てるという部分について取組んでいかなければならない課題だと思います。日本全体として、人口減少や高齢化が進んでいる中で、本庄市の人口減少を食い止めることを目指して取り組んでいくことは必要だと考えます。減少のスピードを少しでも抑えていく、日本全体の減少率よりも抑えていくようなことが出来れば良いのではないかと思います。</p> <p>そのために何をすれば良いのか、様々な施策を行っていただいておりますが、決定打がないということです。財政的にも限りがある中で、何が効果的かということを見極めていかなければならないと思います。本庄市に住みたいという方は、本庄に縁がある方や、住んでいて良かったと実感されている方だと思います。逆に言うと、東京にずっと住んでいる方が本庄に住もうと思うかと言えば、仕事で転入してくるなどの社会的背景があれば別ですが、それ以外は残念ながらあまり多くないと考えます。では、人口減少をどうやって抑えていくか。今いる方を転出させない、転出した方に戻ってきてもらうということが大切だと思います。そういう方をターゲットに何か政策を打っていく必要があるのではないかと考えます。そのことが人口減少を抑える、出生率を高めるような取組になれば良いと感じております。</p>
座長	<p>非常に貴重な意見がたくさん出ました。ありがとうございます。資料3の5～6ページを主に話しましたが、大きく5点に分けられると思います。</p> <p>まずは、要因分析をしっかりと行い、何故そうなっているのか、何故晩婚なのか、晩婚ならどうすればいいのかと、要因分析をしっかりとするという事。</p> <p>次に、資料3の6ページに個別施策として(1)～(44)までありますが、肉づけをする際に、ワークショップやニーズ調査をする等して、市民ニーズをしっかりと把握してやっていただきたいというのは、多くの方の一致した意見だと思いました。</p> <p>また、情報提供をする際に、縦割りに情報提供をされてもうまくいかないのではないかとということで、部課の枠を超えて取り組んでいただきたいと思いました。チャットボットを使って成功した岡山県和気町の事例等もありますので、情報を要約・集約し、ネットワークで提供できるようなものも考えて頂きたいと思いました。</p> <p>また、農業・産業についての様々なご意見も出たところです。個別事例についてもワーキンググループ、ワークショップで市民</p>

	<p>ニーズの把握を諮っていただきたいと思います。</p> <p>さらに、少子高齢化の話で、少子対策だけでなく高齢化についてもどこかに入れるべきではないかという意見も出ました。</p> <p>非常にたくさんの意見をいただいたので、十分まとめきれてはいませんが、貴重な意見を頂きましたので、市としてはそれを取り入れる形で、次期総合戦略を立てていただきたいと思います。</p>
<p>6. 閉会</p>	
<p>事務局</p>	<p>次回は11月6日（水）に開催を予定しており、次期総合戦略の素案についてご意見をいただきたいと考えております。</p> <p>以上をもちまして、令和元年度第1回まち・ひと・しごと創生懇談会を閉会とします。どうもありがとうございました。</p>